

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52001001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	東洋の思想[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	トウヨウノシソウ		
英文授業科目名	Asian Thoughts		
担当教員名	市来 津由彦		
担当教員名 (フリガナ)	イチキ ツユヒコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K110
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義を柱とし授業時間の後半1/4くらいを感想・質問会にする。プリント配布。そのプリントとほぼ同じもののパソコン画面をスクリーンに投影しながら話を する。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	モノの成り立ちを問う、生と死、こころ、気、陰陽、五行		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ：知の営みを問い直す 中国伝統文化を再考する視点から、ものは何によってできているのか、人とはどういう存在なのか、心のはたらきはどういうしくみでおこるのか、といったことについて、中国の思想文化世界はどう思索したのかを考えます。哲学・宗教など人間の生と死の根源を問い、また道徳・政治などその生の社会的あらわれを問う諸科目と講義のねらいを共有します。		
学習の成果	提供される話題に向き合うことにつとめた場合には、東アジア伝統文化の深層の「知」の営みに関心が開かれます。また他科目との対比でいえば、日常の中で意識はしない、西洋あるいは近現代の「知」の中に自身がいることが相対化され、そのことで西洋あるいは近現代の思考法を客観的にみつめ、有効に運用する姿勢が開かれる効果も生まれます。		
授業の目標・概要等	中国における「気」の文化。 表層の文化史では語られることはあまりありませんが、ものなりたちとか、自然界から社会現象までを含むさまざまな現象を、「気」とそれまつわる「陰陽」「五行」といった術語で記述する「気」の文化が、前近代中国の伝統文化においてきわめて根深いものとして存在し、重要な役割を果たしています。その概要を理解することを目指します。		
授業計画	<p>第1回：ガイド（以下、おおむね2回を1ステップとして話を進めていきます。）</p> <p>第2回：中国文化世界理解の基礎（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第3回：中国における「気」の文化総論1</p> <p>第4回：中国における「気」の文化総論2（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第5回：政治思想としての「気・陰陽・五行」1</p> <p>第6回：政治思想としての「気・陰陽・五行」2（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第7回：伝統医学の生理理論と「気」の文化1</p> <p>第8回：伝統医学の生理理論と「気」の文化2（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第9回：「気」の文化世界の死生観念</p> <p>第10回：「気」の文化と中国伝統宗教1</p> <p>第11回：「気」の文化と中国伝統宗教2（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第12回：「気」の文化と中国芸術論（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第13回：現代に生きる「気」の文化1</p> <p>第14回：現代に生きる「気」の文化2（感想・質問アンケート予定）</p> <p>第15回：小結</p> <p>出席と受講姿勢確認のために、各ステップごとに「感想・質問アンケート」を書いてもらいます。このアンケートで極端に出席回数が少ないとみられる人には単位は出せません。また、授業への出席はあくまで定期試験の受験資格要件であり、アンケートを提出したら単位が出るというわけではありません。文面からうかがえる受講姿勢が評価の対象になります。</p> <p>試験期間中に筆記試験を実施します。</p>		
教科書・参考書等	プリント使用。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料 映像（写真その他、動画も含む画像資料）も使用する。		
予習・復習への アドバイス	授業はおおむね2回をセットとして進めていきます。授業の第4回目あたりに参考文献リストを配布します。なじみのない、あるいは身近でない話に、人によってははじめは抵抗があると思います。そうなるのは、下記の「メッセージ」でも述べましたが、近代の考え方の中にあることを自己中心化することにおおむね起因するようです。講義の半分くらいを、しかも簡略化した説明のものですが、受講人数確定頃に配布する重要参考文献の文章をまずは読んでください。さらに、各ブロックごとに並べた参考文献リストの本をできるだけ読むこと。たとえ一冊でも手に取ることで、相当に抵抗は減るでしょう。また授業プリントには多くの情報（資料、図式等）が書いてあります。そのために、聞いているときには分かった気になりますが、しかし何もメモを取らないと忘れてしまいます。メモをしっかりと取るようにして下さい。		
履修上の注意 受講条件等			

成績評価の基準等	各ステップごとの「感想・質問アンケート」30%(程度)、定期試験70%(程度)により、総合的に判断します。
メッセージ	<p>興味しんしんと思う人がいるとともに、見方によっては、あやしげとみえる部分も含む題材です。「信じる／信じない」の二項対立的発想から速断すると、「信じる」場合は何も考えない結果となり、「信じない」場合は排除するだけでやはり何も考えないこととなります。近代の発想とは異質の中国伝統文化の言葉に、まずは、そして冷静に耳を傾けてみましょう。授業の中では、みなさんの日常生活ではなじみのない術語や漢語が多く出てくるために難しいと感じることがあるかもしれませんが、わかりやすく話すつもりです。わたしたちがいつも近代の考え方からおおむね見ていき、その見方に往々にしばられてしまうところに、わかりにくくなる大きな要因があると思います。そのことを自覚して講義に向かうときには、近代の言葉と思考の底になお息づく、中国、日本の伝統文化世界のささやきを聞くことができるかと思っています。</p> <p>話はある意味で地味なものであり、波瀾万丈の面白さというわけにはいきません。しかし講義に出席していれば、毎回なんらかの知的刺激が得られるかと思っています。</p>
その他	<p>履修登録をするということは、その時間の自分の人生をこの科目のために使うように決めるということです。決めた限りは、病気とかの特別な理由がある場合以外、ほかのことをする理由は原則としてないはずで、可能な限り出席するようにしてください。限られた人生の貴重な時間を無駄に過ごすようなことのないようにと願っております。</p> <p>【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）：https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html】</p>
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52003002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	認知と学習[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ニンチトガクシュウ		
英文授業科目名	Cognition and Learning		
担当教員名	坂田 省吾		
担当教員名 (フリガナ)	サカタ ショウゴ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限,8時限	講義室	総K314
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心, 質問に対する受け答え
単位	2	週時間	2
対象学生	第2パッケージ選択学生		
授業のキーワード	ものの見方, 認識, 真理, 心理, 科学, 比較, 認知, 学習, 根源から考える		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ: 知の営みを問い直す (旧パッケージ名: 知の根源を問う) 比較認知科学から知性の起源やヒトの認知の特性を探ることを試みる。 脳科学・認知科学・行動科学と関連するほか、知の意味と淘汰を問うさまざまな 人文科学と関連している。		
学習の成果	ヒトのものの見方, 考え方が理解できるようになる。自分と他人のものの見方が比較できるようになる。		
授業の目標・概要等	自然科学の枠組みを踏み外さずに、動物たちの認知の世界を探ることによって、 人間の心のより深い理解をめざすことがこの講義のねらいである。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 認知とは 第3回 学習とは 第4回 学習の基本原理 第5回 動物がしめす認知判断 第6回 ハトの見たピカソ 第7回 右脳と左脳の認知的側面 第8回 マジカルナンバー7 第9回 作業記憶と参照記憶 第10回 私は誰か、人格と記憶 第11回 知性のインプリメンテーション 第12回 スリップ、主観的輪郭 第13回 認知情報処理 第14回 動物の認知・ヒトの認知 第15回 認知と学習のまとめ 試験を実施する		
教科書・参考書等	『21世紀の教養 5 知の根源を問う』 青木・坂田・林・平手・森本共編 培風館 『動物の錯視』 中村哲之著 京都大学学術出版会 『うぬぼれる脳』 ジュリアン・ポール・キーナン著 NHKブックス1054 『ピカソを見わかるハト』 渡辺茂著 NHKブックス747 『心の輪郭』 川合伸幸著 北大路書房 『パピー二の比較心理学 行動の進化と発達』 比較心理学研究会訳 北大路書房		
授業で使用する メディア・機器等	補助テキスト, 配付資料, 映像 (ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	1. 遅刻せずに出席して疑問点は質問しましょう 2. 認知とは何かを予習しておいてください 3. 学習とは何かを予習しておいてください 4. 学習の基本原理の復習をしましょう 5. 動物がしめす認知判断とはどのようなものでしょうか 6. ハトはピカソをどう見ているか 7. 右脳と左脳の機能的違いとは? 8. 記憶容量を調べた実験は? 9. 作業記憶と参照記憶についてまとめておきましょう 10. 記憶処理を行っている脳の部位は?		

予習・復習への アドバイス	11. 知性とは何でしょう？ 12. 主観的輪郭が見えましたか？ 13. 認知情報処理についてまとめておきましょう 14. 動物とヒトの違いは何でしょう 15. 試験への準備を怠りなく
履修上の注意 受講条件等	第2パッケージ選択学生
成績評価の基準等	定期試験80%（程度）及び授業への参加態度20%（程度）により行う。
メッセージ	積極的な姿勢で授業へ参加することを望む
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52004001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	数学の世界[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	スウガクノセカイ		
英文授業科目名	The world of mathematics		
担当教員名	栗田 多喜夫		
担当教員名 (フリガナ)	クリタ タキオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K103
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	情報技術を支える数学		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第2パッケージ:知の営みを問い直す 情報技術を支える様々な数学を概観し、数学の視点から、現代社会の知の営みを問い直す。		
授業の目標・概要等	スマートフォンが普及し、いつでもどこでも簡単に必要な情報を検索することが出来ます。また、デジタルカメラは自動的に人の顔を見つけて、そこに焦点を合わせてくれます。テレビのアナログ放送は終了し、完全にデジタル化されました。そうした情報技術の急激な進歩が社会の質を大きく変えています。この講義では、情報技術を支える様々な数学を概観することで、現代社会の中での知の営みについての理解を深めることを目指します。		
授業計画	第1回 情報技術を支える数学 第2回 情報量 第3回 映画の中の数学 第4回 回帰分析(直線当てはめ) 第5回 重回帰分析(モデルの当てはめ) 第6回 中間まとめとディスカッション 第7回 直交展開 第8回 フーリエ解析とサンプリング定理 第9回 固有値問題と2次形式 第10回 主成分分析とその応用 第11回 グラフ理論とPageRankアルゴリズム 第12回 データ圧縮 第13回 パターン認識と機械学習 第14回 画像認識への応用 第15回 まとめとディスカッション 中間レポート、期末レポート		
教科書・参考書等	[参考書] 大村平、「情報数学のはなし」、日科技連 赤間世紀、玉城史朗、長田康敬、「情報数学入門」、共立出版 金谷健一、「これなら分かる応用数学教室」、共立出版 岩堀信子、「グラフと確率行列」、産業図書		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、映像(PC)		
予習・復習への アドバイス	講義資料を配付する予定ですので、事前にそれに目を通しておくと、内容の理解が深まると思います。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	中間レポートおよび期末レポート(80%程度)と小テスト等(20%程度)により評価する。		
メッセージ	皆さんの身近な情報技術を支える基礎として、様々な数学が使われています。この講義を通して、数学や情報技術の広がりを感じていただければと思います。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52005001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	知能とコンピュータ[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	チノウトコンピュータ		
英文授業科目名	Intelligence and Computer		
担当教員名	森本 康彦		
担当教員名 (フリガナ)	モリモト ヤスヒコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限,4時限	講義室	総K103
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心 パワーポイントのアニメーションを使用して解説を行う。 また一部の内容ではテレビ番組を利用する。
単位	2	週時間	2
対象学生	文科系,理科系を問わず,初めて情報科学を学ぶ人を想定しています。		
授業のキーワード	コミュニケーション,学習,情報検索,データマネジメント,人工知能		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	パッケージ名:知の営みを問い直す 言葉を理解するコンピュータやクイズやゲームで人間以上に賢くふるまえるコンピュータが出現してきたが,そのような知的な機械(コンピュータ)の動作の仕組みを理解することを通じて「知」とはなにかを考察する。 「コミュニケーション」や「学習」の本質を知る		
授業の目標・概要等	この授業では,コンピュータや人工知能・機械学習の基礎的な技術解説を行います,技術そのものを理解すること以上に,この技術を学習することとおして「知の根源」について各自がどう考察するかが重要です。「知の根源」について思いついたことをノート等にも書きとめておきましょう。試験では必ず「知の根源」についてあなたが思いついたことについて問います。		
授業計画	第1回: ガイダンス 第2回: 人間と機械とのコミュニケーション 第3回: 言語とは何か 第4回: 機械が言葉を理解する仕組み 第5回: チョムスキーの形式言語理論とコンピュータとの関わり 第6回: 効率よく問題を解くとは?(アルゴリズムの基礎) 第7回: インターネットサーチ技術 第8回: 中間試験 第9回: 必見!これが効率よく仕事をこなす秘訣 第10回: ニューラルネットワーク 第11回: 情報量と教師あり学習 第12回: 教師なし学習 第13回: ビッグデータ時代の生活とビジネス(1) 第14回: ビッグデータ時代の生活とビジネス(2) 第15回: 期末試験 中間試験・期末試験を実施する予定		
教科書・参考書等	教科書は使用しない。 参考書は青木他編,「21世紀の教養・知の根源を問う」,培風館		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイントスライド・配付資料・映像(ビデオ資料)		
予習・復習への アドバイス	全体をとおして基本的に予習は不要です。各回の受講後に,講義ででてきたキーワードに関連する参考文献を図書館やネットで調べ理解を深める努力をしてください。 第2~5回: オートマトン,形式言語理論,書き換え規則,チョムスキー,正規言語,文脈自由言語,文脈依存言語,句構造言語などのキーワードを手掛かりにして調べてください。 第6~9回: 探索アルゴリズム,2分探索,計算量,オー記法,ソートアルゴリズム,インデックス,ページランクなどのキーワードを手掛かりにして調べてください。 第10~12回: 教師あり学習,教師なし学習,ニューラルネット,強化学習,パーセプトロン,バックプロパゲーション,決定木,決定リスト,エントロピー,相互情報量などのキーワードを手掛かりにして調べてください。 第13~15回: データマイニング,相関ルール,推薦システム,協調フィルタリングなどのキーワードを手掛かりにして調べてください。		

履修上の注意 受講条件等	高校時代は文系コースだったという学生が特別な予習なしで履修しても十分理解できるような内容になっています。が、講義内で疑問点やさらにしりたいことが出たら必ず復習するようにしてください。
成績評価の基準等	中間試験・期末試験による評価80% 日頃の講義への参加状況（質問やコメント等）20%
メッセージ	
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52006001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	統計学で考える[P2A,PN9]		
授業科目名 (フリガナ)	トウケイガクデカンガエル		
英文授業科目名	Statistical way of thinking		
担当教員名	向谷 博明		
担当教員名 (フリガナ)	ムカイダニ ヒロアキ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総K103
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	データ解析, 確率・確率分布, 推定・検定, 多変量解析		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ: 知の営みを問い直す 確率・統計の視点から、知の利用について考える。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	視聴率や偏差値といった豊富な具体例に基づいて、統計の基本から始まり、記述統計学、データ解析、確率・確率分布、推定・検定、多変量解析などの高度な内容を理解する。		
授業計画	<p>第1回 統計学 = データの科学とは何か 統計学の体系・データの見方</p> <p>第2回 記述統計学・データ解析: 平均, メジアン, モード</p> <p>第3回 記述統計学・データ解析: 標準偏差, 相関係数</p> <p>第4回 確率・確率分布: 確率の基礎</p> <p>第5回 確率・確率分布: 乱数, 条件付き確率</p> <p>第6回 確率・確率分布: 2項分布, ポアソン分布</p> <p>第7回 確率・確率分布: 正規分布, 中心極限定理</p> <p>第8回 推定・検定: ランダム回答, 最尤法</p> <p>第9回 推定・検定: 区間推定</p> <p>第10回 推定・検定: 仮説検定</p> <p>第11回 推定・検定: 平均の検定, 適合度検定, 独立性検定</p> <p>第12回 多変量解析: 相関・回帰</p> <p>第13回 多変量解析: 重回帰分析</p> <p>第14回 多変量解析: 主成分・因子分析</p> <p>第15回 多変量解析: クラスタ分析</p> <p>毎回小テストを実施</p>		
教科書・参考書等	教科書: 田栗, 藤越, 柳井, C.R.ラオ, 「やさしい統計入門」(ブルーバックス 1557), 講談社, ISBN: 978-4-06-257557-7		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 配付資料		
予習・復習への アドバイス	第1回~第15回: 各回, 2章ずつ解説を行う予定です。 授業計画にそって, 毎回教科書の該当部分を読み, 講義を聞いてスムーズに理解できるように予習してください。難しい数式等は後回しにしても, 出てる用語については, 一般教養として記憶して下さい。		
履修上の注意 受講条件等	授業への出席は, あくまで定期試験の受験資格要件であり, 成績評価の対象ではありません。高等学校で学習する数学が, ある程度利用できること。		
成績評価の基準等	毎回の小テスト(20%)および15回の講義終了後の試験(80%)の総合得点による。		
メッセージ	高等学校で学習する数学の中でもほとんど扱われず, また, 直接入試科目としてめったに出題されない「統計」ですが, 社会で最も利用されている数学分野です。現実社会における実践的な応用例を参考に, 多くの学生がこの分野に興味を持って頂ければと思います。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
 回答に対しては教員からコメントを入力し, 改善につなげていきます。
 なお, 受講者が著しく少ない場合などに, アンケートを実施しないときがあります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52007001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	コミュニケーションの哲学[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	コミュニケーションノテツガク		
英文授業科目名	Philosophy of Communication		
担当教員名	堀江 剛		
担当教員名 (フリガナ)	ホリエ ツヨシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	総L101
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	コミュニケーション、記号/信号、意味、情報、相互作用、メディア		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	知の営みを問い直す(第2パッケージ): コミュニケーションの視点から、今日展開されている学問・思想における「知の営み」を領域横断的な仕方です「問い直す」。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	講義では「コミュニケーションとは何か」という問いを出発点にして、その哲学的・思想的な新しさを考察する。コミュニケーションに関わる基本的な諸概念(信号/記号・意味・情報・相互作用・メディアなど)を中心に、数学・工学・生命理論・言語理論・文化理論・社会理論といった幅広い学問領域を紹介しつつ、最後に「コミュニケーションを哲学すること」の意義を考える。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: コミュニケーションを問い直す/ 基本的要素 2. 意味 <ul style="list-style-type: none"> ・コード/文脈、象徴 ・意味をめぐる諸研究: ソシユール言語学など 3. 情報 <ul style="list-style-type: none"> ・情報とは何か ・情報理論 4. 相互作用 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的相互作用 ・シンボリック相互作用論/社会システム論 5. メディア <ul style="list-style-type: none"> ・メディアとは何か ・メディア理論/メディア発達史 6. まとめ: コミュニケーションを哲学することの意義 		
教科書・参考書等	授業中に適宜指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	予習は必要ない。講義で聞いた内容をしっかり自分のノートにメモし、そこで考えた(考えさせられた)事柄も加えてメモすることを勧める。それがレポートや期末試験に反映されればよい。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	レポート(30%程度: 学期中頃に一回)および期末試験(70%程度: 自筆ノートのみ持込可)により評価する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)]: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52008001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	人間・歴史・風景の感性哲学[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ニンゲン・レキシ・フウケイノカンセイテツガク		
英文授業科目名	Aesthetics and Sensibility Philosophy of the Human, History and Landscape		
担当教員名	桑島 秀樹		
担当教員名 (フリガナ)	クワジマ ヒデキ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K109
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心：部屋を暗くして、大型スクリーンへのプロジェクター投射により、動画およびスライド写真などの映像資料を多用しながら、講義を進めます。残念ながら、講義中に一緒に映像を観ながら、説明を受けられない方には受講は向きません。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード			
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第2パッケージ:知の営みを問い直す Aesthetics(美学=感性の学)やArt Science(芸術/技術の学)を基礎として、人間・歴史・風景を読み解く試みです。「感性」をめぐる哲学的な思考により、われわれの知の在り方を、具体的な側面から問いなおす科目。		
授業の目標・概要等	<p>本講義では、司馬遼太郎による思索的な紀行文『街道をゆく』シリーズを「議論のための基礎」として取りあげながら、この博学な作家の「眼」を借りて、受講生とともに、時間・空間を超えた想像力の「旅」に出ることを目標とする。「現場(=フィールド)」に降り立った司馬の息づかい、換言すれば、五感をフルに活用する知的営為こそが、独創的で開かれた知の体系に結実していく。ここにみられるのは、具体的な経験に裏付けられた人間存在をめぐる一個の感性哲学といてもよい。旅先での「生身の人間」の再発見に立ちあつたときの興奮は、あやまたずわれわれの知的探求心を駆動させてくる。このような「人(ひと)」「史(ふみ)」「土(くに)」をめぐる壮大な知のスペクタクルは、『街道をゆく』のような総合的な業績をしっかりと読破することでしか理解されまい。さあ、いっしょに「知の旅」に出ようではないか！世界の海は広く、歴史の森は深いだから。ただし、そこに、批判的な視点もかならず忘れずに(司馬の記述はすでに古くなっている面もあるし、彼の観方が一面的なばあいもあるのだ)。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：アイルランドの風景(1) ・テキスト：『愛蘭土紀行(1・)』 第3回：アイルランドの風景(2) 第4回：アイルランドの風景(3) 第5回：オランダの風景 アイルランドとの比較(1) ・テキスト：『オランダ紀行』 第6回：オランダの風景 アイルランドとの比較(2) 第7回：アメリカの風景 アイルランドとの比較(1) ・テキスト：『ニューヨーク散歩』 第8回：アメリカの風景 アイルランドとの比較(2) 第9回：韓国/朝鮮の風景(1) ・テキスト：『韓のくに紀行』 第10回：韓国/朝鮮の風景(2) 第11回：中間レポート(授業の進捗状況により、日程が前後することもあります。授業内で実施前に実施日を確認します。) 第12回：近江or 沓岐・対馬の風景 韓国・朝鮮との比較(授業進捗状況により、一部DVD資料の割愛の可能性もあります。) ・テキスト：『湖西のみち』(or『沓岐・対馬の道』) 第13回：広島風景 韓国・朝鮮との比較(1) ・テキスト：『芸備の道』 第14回：広島風景 韓国・朝鮮との比較(2) 第15回：まとめ</p>		
教科書・参考書等	使用テキストおよびDVD映像資料： 朝日文芸文庫版『街道をゆく』シリーズ(授業で必要な巻は必読!!)。NHKスペシャルDVDビデオ《司馬遼太郎 街道をゆく》シリーズ全巻。そのうち、特に上記「授業計画」で指示したシリーズ。		
授業で使用する メディア・機器等	テキストおよび映像資料(DVD画像資料など)		

予習・復習への アドバイス	司馬遼太郎の『街道をゆく』シリーズは、簡単に文庫本で手に入ります（あるいは、ほとんどの街の図書館にも置いてあります）。DVD映像はあくまでも原テキストをもとに、NHKが番組制作したものです。かならずテキストを手取るようにしてください。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	中間レポート（授業理解チェック・レポート）：20パーセント程度。 期末試験：40パーセント程度。 平常（授業参加）：40パーセント程度。
メッセージ	
その他	学期中、担当教員の担当する教養・専門・大学院科目と連携し、ミュージアム見学会や研究会・シンポジウムへの参加を促すかもしれません（自由参加）。その時はぜひとも積極的にご参加を（ただし基本的には、参加費用は自己負担、交通安全は自己責任でお願いします）。 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52009001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	脳と知[P2A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ノウトチ		
英文授業科目名	Brain and intellectuality		
担当教員名	林 光緒		
担当教員名 (フリガナ)	ハヤシ ミツオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限,2時限	講義室	総K110
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	脳、知識、知性、人間、認知		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す 脳の機能と人間行動との視点から、知について考える。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	知・情・意の中枢としての脳の機能を紹介しながら、意識と自我、知能、知識、知覚などの脳における「知の営み」を解説する。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 意識と自我(1) 脳 知・情・意の中枢</p> <p>第3回 意識と自我(2) 言語中枢と失語</p> <p>第4回 意識と自我(3) 分離脳と大脳半球機能差</p> <p>第5回 意識と自我(4) 睡眠と覚醒</p> <p>第6回 知能(1) 知能と知能検査</p> <p>第7回 知能(2) 遺伝と環境</p> <p>第8回 知能(3) 動物の知能</p> <p>第9回 知識(1) ワーキングメモリ</p> <p>第10回 知識(2) 知識の構造</p> <p>第11回 知識(3) 忘却と健忘</p> <p>第12回 知覚(1) 眼球と視神経</p> <p>第13回 知覚(2) 視覚情報処理</p> <p>第14回 知覚(3) 形態視と空間視</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>試験を実施する。</p>		
教科書・参考書等	授業中に参考書を適宜指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像(ビデオ/PC/その他画像資料)		
予習・復習への アドバイス	<p>以下の図書を参考にして、知識を深めよう。</p> <p>第1~2回 オースタイン、トムソン「脳ってすごい」草思社 日本放送出版協会「NHKサイエンススペシャル 驚異の小宇宙・人体II 別巻 ビジュアル 脳と心のデータブック」</p> <p>第2~5回 ガザニガ「二つの脳と一つの心」ミネルバ書房 酒井邦嘉「脳の言語地図」明治書院 堀忠雄「眠りと夢のメカニズム」サイエンス・アイ新書</p> <p>第6~8回 スー・サベージ・ランボー「言葉を持った天才ザル カンジ」NHK出版 生和秀敏「心の科学」北大路書房</p> <p>第9~11回 S・J・ブライクモア、U・フリス「脳の学習力」岩波書店 船橋新太郎「前頭葉の謎を解く」京都大学学術出版会 生和秀敏「心の科学」北大路書房</p> <p>第12~14回 R・N・シェパード「視覚のトリック」新曜社 下條信輔「視覚の冒険」産業図書</p>		

予習・復習への アドバイス	北岡明佳「だまされる視覚」化学同人
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	授業中に行う作業（20%）と期末試験（80%）により評価する
メッセージ	
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52014001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	美術と人間[P2A,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ビジュツトニンゲン		
英文授業科目名	Fine Arts and Human Beings		
担当教員名	高地 秀明		
担当教員名 (フリガナ)	コウチ ヒデアキ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	主に講義中心。パワーポイントやDVDなど、視聴覚教材による画像資料の提示を多用する。学生間の対話、教員と学生との対話を重要視する。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	美術と人間, 美術遺産, 絵画, 彫刻, 美術鑑賞, 科学と芸術, イメージの世界, 創造と表現		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ: 知の営みを問い直す		
学習の成果	美術文化をととした人間理解		
授業の目標・概要等	人類の誕生から今日まで、人間は絵や記号を描き、ものをつくるという造形的な行為を行ってきた。なぜ人間は絵を描き、ものを造るのか。幾つかの東西の美術文化事象を取り上げて、美術作品の生まれた背景や作家の意図に迫るなど、複眼的・総合的なアプローチにより人間と美術文化についての理解を深める。		
授業計画	<p>第1回 3万年前の洞窟壁画から20世紀のピカソまで、人間は何を描いたのか</p> <p>第2回 美術と科学(レオナルドのもの見方と表し方)</p> <p>第3回 美術と創造(ピカソのもの見方と表し方)</p> <p>第4回 絵画という方法-1(光と陰、視点と空間、筆致)</p> <p>第5回 絵画という方法-2(造形による言語)</p> <p>第6回 カンディンスキーと抽象画</p> <p>第7回 印象派の世界</p> <p>第8回 ジャポニスムと日本美術の特色</p> <p>第9回 シュールレアリスムと構想表現</p> <p>第10回 絵画を読む1(表現の意味と背景を探る: ルネッサンスのかたち)</p> <p>第11回 絵画を読む2(表現の意味と背景を探る: プリュージェルの寓意)</p> <p>第12回 絵画を読む3(表現の意味と背景を探る: 宗教画の世界)</p> <p>第13回 絵画を読む4(表現の意味と背景を探る: 歴史・神話画の世界)</p> <p>第14回 絵画を読む5(表現の意味と背景を探る: 現在の美術)</p> <p>第15回 環境と美術、人間なぜ絵を描いたのか</p> <p>期末試験を実施します。また、毎時間ミニレポート提出があります。</p>		
教科書・参考書等	<p>特に教科書は指定しないが、以下の参考図書を推薦する。</p> <p>「美術の物語(ポケット版)」ゴンブリッチ, エルンスト・H 著 ファイドン株式会社</p> <p>「西洋近代絵画の見方・学び方(放送大学叢書)」木村三郎 著 左右社</p> <p>「名画を読み解くアトリビュート」木村三郎 著 淡交社</p> <p>「まなざしのレッスン 1 西洋伝統絵画」三浦篤(著) 東京大学出版会</p> <p>「NHKブックス絵画を読むイコノロジー入門」NHK出版</p>		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイント・DVDなど、視聴覚教材による画像資料の提示を多用する。		
予習・復習への アドバイス	「人間は何故、どのように描いたのか。」その意味や背景を探究し、美術文化への理解を深めるために、推薦図書を読み、美術に関する図書やTV番組などからも積極的に学んでほしいと思います。		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	授業への参加態度と毎時間課すレポート40%(程度)及び定期試験60%(程度)により行う。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内)】: https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52015001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	大学と学生[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ダイガクトガクセイ		
英文授業科目名	Higher Education and Student		
担当教員名	吉田 香奈		
担当教員名 (フリガナ)	ヨシダ カナ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K312
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	大学、高等教育、教育制度、機会均等、質保証、大学入試、教授法、カリキュラム		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す		
学習の成果	今日の大学教育をめぐる諸課題を多角的に検討し、具体的な改善案を示すことができる。		
授業の目標・概要等	<p>本授業では、知の営みの場である「大学」に注目し、大学の誕生・発展から現代の課題までを幅広く学んでいく。いくつかのトピック（大学進学格差と機会均等、大学入試制度、大学の教授法、大学のカリキュラム）を取り上げて、何が課題なのか、どう改善すればよいのかをディスカッションやディベートを通じて考えていく。</p> <p>本授業を通じて、大学に進学して学ぶことの意味や学び方について考えるきっかけにしてほしい。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨソ</p> <p>第2回 大学の歴史と制度：誕生から現在まで（1）</p> <p>第3回 大学の歴史と制度：誕生から現在まで（2）</p> <p>第4回 大学進学をめぐる課題を考える：進学格差と機会均等（1）</p> <p>第5回 大学進学をめぐる課題を考える：進学格差と機会均等（2）</p> <p>第6回 大学入学をめぐる課題を考える：大学入試制度（1）</p> <p>第7回 大学入学をめぐる課題を考える：大学入試制度（2）</p> <p>第8回 大学における教育方法を考える：大学の教授法（1）</p> <p>第9回 大学における教育方法を考える：大学の教授法（2）</p> <p>第10回 大学のカリキュラムを考える：教養教育と初年次教育（1）</p> <p>第11回 大学のカリキュラムを考える：教養教育と初年次教育（2）</p> <p>第12～14回 グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>最終日に試験を実施する。</p>		
教科書・参考書等	<p>高妻紳二郎編著『新・教育制度論』ミネルヴァ書房、2014年。</p> <p>安原義仁・大塚豊・羽田貴史著『大学と社会』放送大学教育振興会、2008年。</p> <p>小林雅之『進学格差』ちくま新書、2008年。</p> <p>有本章・羽田貴史・山野井敦徳編著『高等教育概論 大学の基礎を学ぶ』ミネルヴァ書房、2005年。</p> <p>館昭・岩永雅也『岐路に立つ大学』放送大学教育振興会、2004年。</p>		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、映像資料		
予習・復習への アドバイス	<p>【予習】配布資料の指示された箇所を事前に読んでおくこと。</p> <p>【復習】提示された学習課題をまとめておくこと。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ヨーロッパ中世大学の成立経緯と他国への伝播について理解しよう</p> <p>第3回 日本における大学の発展について理解しよう</p> <p>第4-5回 大学進学格差について考えよう。誰が進学しているのか？</p> <p>第6-7回 大学入試制度と入学制度について考えよう。日本は特殊な国？</p> <p>第8-9回 大学における教育方法と教育評価について考えよう。いい授業とは？</p> <p>第10-11回 カリキュラムについて考えよう。なぜ教養教育を学ぶのか？</p> <p>第12～15回 グループワーク・発表・まとめ</p>		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	最終試験(60%)、小レポート(20%)、グループワーク・発表(20%)、により総合的に評価する		

メッセージ	大学教育のあり方について考えてみたい人や教育学の領域に興味のある人にお勧めです。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	52016001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	「所有感」と「人の幸せ」を考える[P2B,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	シヨウユカントヒトノシアワセヲカンガエル		
英文授業科目名	To think deeply		
担当教員名	早瀬 光司		
担当教員名 (フリガナ)	ハヤセ コウジ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限,4時限	講義室	総K312
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	与えられた課題を真剣に考える、自己内のディスカッションを各自が行う
単位	2	週時間	2
対象学生	「考える」意志のある学生、「考えようとする」姿勢のある学生、「深く考えたい」学生		
授業のキーワード	考える 考え出す、自分を見つめる、所有感を正す、実践・哲学、真の幸福		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第2パッケージ:知の営みを問い直す 「常識的に、これはこんなもんだ」という事柄(知の営み)を、深く探求してこれを問い直す。		
学習の成果	担当教員が期待している成果:「いつでも自分自身を深く探れる」「所有感を正せる」「思い切り生きられる」「人のことを配慮できる」「自分の特性、特徴、特長を見出すことができる」「自分の真の幸福を探求できる」		
授業の目標・概要等	これは「考える」授業です。「覚える」授業ではありません。「考える」意志のある人が受講して下さい。あるいは「考えようとする」姿勢のある人が受講して下さい。または「深く考えたい」人が受講して下さい。授業の具体的な目標としては「授業中に自分自身を良く見つめながら、深く考える」という作業を行うことによって、「いつでも自分自身を深く探れるようになること」が目的です。		
授業計画	<p>第1回:ガイダンス 授業内容や講義の進め方、単位取得に関わる注意事項など</p> <p>第2回:序章 「所有感」と「人の幸せ」を考え始める、に当たって</p> <p>第3回:第一章 所有感を深く考え、これを問い直す(その1)</p> <p>第4回:第一章 所有感を深く考え、これを問い直す(その2)</p> <p>第5回:第二章 立腹感を深く考え、これを問い直す(その1)</p> <p>第6回:第二章 立腹感を深く考え、これを問い直す(その2)</p> <p>第7回:第三章 不可能感を深く考え、これを問い直す</p> <p>第8回:第四章 貨幣感を深く考え、これを問い直す</p> <p>第9回:第五章 思い切り生きる(その1)</p> <p>第10回:第五章 思い切り生きる(その2)</p> <p>第11回:第六章 自分の仕事を生きる</p> <p>第12回:第七章 人と共に生きる</p> <p>第13回:第八章 伴侶と生きる(その1)</p> <p>第14回:第八章 伴侶と生きる(その2)</p> <p>第15回:まとめ</p> <p>試験:毎週の授業時、及び、期末時。採点は厳格に行う。また、採点は、担当教員が主体的に独自に判断して行う。欠席が3回以上になると期末試験の受験資格を失う。遅刻は、始業時から5分後までの遅刻を、欠席1/3相当とし、5分~30分後までの遅刻を、欠席2/3相当とする。30分以上の遅刻は、入室を認めない。</p> <p>「考えようとする」姿勢が見当たらないと担当教員に判断された学生は、欠席扱いとなることがある。</p>		
教科書・参考書等	現在のところ、なし。		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイント,映像(DVD)		
予習・復習への アドバイス	復習が極めて重要である。復習をしっかりと行ってほしい。予習としては、その週のタイトルを見てどのような内容が想像してみよ。		
履修上の注意 受講条件等	これは「考える」授業です。「覚える」授業ではありません。「考える」意志のある人が受講して下さい。あるいは「考えようとする」姿勢のある人が受講して下さい。または「深く考えたい」人が受講して下さい。		
成績評価の基準等	毎週の授業時に出される課題の採点(出された課題を、どれだけ深く真剣に考えることができたか?)26%程度、毎週授業時の最後に出されるテーマ課題の採点(当日の主題を、どれだけ知得することができたか?自分自身を、どれだけ深く見つめることができたか?)26%程度、中間試験的レポートの採点8%程度、期末試験の採点40%程度。採点は厳格に行う。また、採点は担当教員が主体的に独自に判断して行う。欠席が3回以上になると期末試験の受験資格を失う。遅刻は、始業時から5分後までの遅刻を、欠席1/3相当とし、5分~30分後までの遅刻を、欠席2/3相当とする。30分以上の遅刻は、入室を認めない。また、「考えようとする」姿勢が見当たらないと担当教員に判断された学生、また、授業中に不真面目な態度があっ		

成績評価の基準等	たと担当教員に判断された学生は欠席扱いとなることがある。
メッセージ	これは「良く考えて、自分自身を深く見つめる」ための授業です。「知識を得る」ための授業ではありません。
その他	単位も欲しいが、新たな自分を発見したいという「意欲や積極性」のある学生が受講して下さい。「単位が欲しいだけ」の消極的な姿勢の学生は、遠慮してください。 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	